

令和7年度第2回 博多市民センター運営審議会議事録

日 時 令和8年3月5日(木) 10時30分～12時00分
場 所 福岡市立博多市民センター 5階 視聴覚室
委 員 【出席】8名
事務局 博多市民センター館長 外3名
指定管理者 3名

傍 聴 人 なし

○ 次 第

- 1 開 会
- 2 事務局あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 協議・報告事項
 - ① 令和7年度 市民センター利用状況について
 - ② 令和7年度指定管理者事業について
 - ③ 令和8年度指定管理者事業実施計画について
 - (2) その他
- 4 閉 会

○ 議事録

(議 事)

協議・報告事項

- ① 令和7年度 市民センター利用状況について
- ② 令和7年度指定管理者事業について
- ③ 令和8年度指定管理者事業実施計画について

指定管理者から説明・報告を行った。

①及び②についての意見・質問

(委員)和室の利用で第一が少し多く、第二は少ないが、どのような利用か。

(指定管理者)百人一首やカルタ、着付け等。華道は実習室を使用しており、茶道は利用がない。用途が限られておりなかなか伸び悩んでいる。

(委員)今は畳の部屋でも椅子テーブルを置いているところがあると思うが、そういった対応は。

(指定管理者)常設はしていないが、要望があれば用意している。

(事務局)どこのセンターも同じような傾向。ご指摘いただいたように和室でも畳を傷めない範囲で椅子を入れるなど、工夫していきたい。

(委員長)公民館ではどうか。

(委員)公民館も同様。設備は整えているが、お茶をする人も高齢化で辞めていったりしている。

ただ、避難所としては和室を希望される方が多い。月隈公民館では発熱者の隔離用に確保しているが、発熱者が来るまでの間は他利用者也避難所として利用している。やっぱりなくてはならないものだし、日頃の使い方も考えないといけないと思っている。

(委員長)国立青年の家の立ち上げに携わったが、和室設置を希望する声がありながら、利用率としては低い。お茶は世界的なブーム。利用者の開発ができればいい。

(委員)コーヒー教室は定員各回6名だが参加人数は11名となっている。

(指定管理者)午前と午後それぞれの定員を6名でやっている。分かりづらく申し訳ない。満席なら12名。当日キャンセルがどうしても出る。

(委員長)映画を観た後のダイアログはとってもいいと思う。学習者は、回数を重ねると「深めたい」という意欲が湧いてくる。こういう人が今度はリーダーになって、手伝いとかボランティアに育っていくことも考えられる。ぜひ手法として続けてほしい。

(委員長)これからの時代は情報が大事。ホームページの開発、研究は大変大事。10 数年前、スマホが流通し出して、大学で掲示を見ない子、大学に来ない子も、スマホに送ると伝わった。授業のテーマ、課題提出の締め切り。こりゃかなわんと思った。せっせと掲示していた時代が変わったと当時思った。そうはいうものの、文字媒体もまだまだ大事。公民館だよりを見ている人はけっこういる。併用しながらでも、この研究開発は進めてほしい。

(事務局)博多市民センターの指定管理者はこのようにSNSに力を入れている。一方で、他のセンターで「何を見て来たか」というアンケートでは、チラシ、センター内での掲示を見てなどがまだまだ多い。どれをやれば絶対的に正しいというのではない。ターゲットによっても変わるので上手くミックスしながらやっていきたい。

(委員)博多区では公民館の公式アカウントで公民館だよりを載せている。全戸配布しても「若い人は見ないよ」という意見もあった。月隈を離れた人にもLINEなどで情報は行き渡っているかなと思う。紹介の努力は続けている。

③ 意見・質問

(委員)コンサートなどよく参加させていただく。フラダンスが多すぎるという知人の意見があった。

(委員長)鳥取にいた時、申込が多くて特設会場を設けたと担当者が言っていた。習う人にとっては見せ場、表現の場が必要だが主催者は苦勞する。学習者は成果が出ると表現の場がほしい。

(指定管理者)団体の選出は博多区企画振興課が行っている。毎年、連続にならないようにするなど工夫はしているようだ。

(委員)出たくても出れない団体もいると聞く。

(指定管理者)企画振興課にはご意見として伝えておく。

(委員長)関東近辺の講座で一番多かったのは陶芸教室。窯が足りなくなるほど。

(委員)前回、博多すくすくネットの人気企画を問われていた。今日の資料は 0 歳から対象の事業も増えていてうれしい。

母親へのアンケートでは結果が二分しており、「一緒にできてよかった」「体を動かすことが少ないので子どもと一緒に発散できてよかった」というパターンと、ネグレクトとかではないが「子どもと離れられてよかった」「自分の時間が欲しい」という意見がある。無料の託児で子どもと完全に1、2 時間離れて、体のバランス、ヨガとか、本人のための時間を過ごす。同じ母親として、若ければ若いほどそういう意見もあるのかなと思う。お母さん方が自分のリラックスとしてよかったというのは美容系。肌、アロマ、体操。今のお母さんたちは美容に力を入れている。綺麗な爪をしていたり。

子どもと別枠で託児があるといいんじゃないかなと思った。そこで初めて自分を見直したり、お母さん同士でご主人の話をしたりとか。お母さん同士のつながりが出来て自分の悩みは自分だけじゃないんだなと感じていただけるような時間。

(委員長)非常に貴重な意見で研究していращやる。託児一つとってもいわゆる福祉系のところと先程のつながりのような話。学生のためにも地域と組むことは大事。

(委員長)学校側から博多市民センターと組めることがあったり、助言はあるか。

(委員)板付北小は少し遠いので保護者と来ることになると思う。土曜授業を避け、講座の中に「子どもたちと一緒に」というところなどはありがたい

(委員)できないは別にして、小学校も中学校も不登校対応は一番の課題で年々増えている。那珂中学校は近隣の公民館に連れて行き、最近では雛人形を並べるお手伝いをしたりしている。中学校を卒業するとそういう機会もなくなってしまう。R8は人権講座で「ひきこもりについて」とあり、そういう部分にぜひ力を入れていただきたい。学校を卒業した後も地域にこういうのがあれば行ってみようかなとなると思う。オンラインで学ぶことはできるが、体験できることは貴重なので。

(委員長)事務局から何か聞きたいということがあれば。

(指定管理者)夏のイベントについて悩んでいる。例えば樹名板のイベントは夏場にやりたいが、夏場に外で実施するのは躊躇する。秋にずらせば他イベントと重なり参加者が集まらない可能性がある。子ども向けのイベントをする時、夏場に対する考え方をどうしているか伺いたい。小学校では「夏は外に出ないように」等の指導を行っているか。

(委員)子どもの安全、命を一番に考えている。夏場は昼休み外に出られていない。暑さ指数をチェックしながら、危険になると外には出さない。大きな行事運動会なども夏場は避ける。プールもできなかったり。まずは安全というところを考えている。

(委員)逆にいうと、室内でできそうなことを企画するといいと思う。

(委員長)甲子園も試合時間等を考える時代。データも尊重しながらやっていく。私は九州共立大学のスポーツ学部で昔は暑い時期に意図的に鍛えるとか、人間形成にいいんだとか言っていたが今は違う。でも今は委員が言われたように安全第一なのでしょう。傾向として沖縄にはプロ野球、サッカー、韓国野球などもキャンプに来る。そうすると建物がたくさん建つ。高齢者向けのゲートボール場等もできる。屋根付きの立派な施設。キャンプに来るプロ選手が、雨天時の練習場にもなるようにしている。全国の体育館にも冷房が設置されつつあり、そういう配慮というのもこれから大事になる。

以上